

教職課程を振り返って

史学科4年 花原 慧 史

1、憧れから目標へ

私が教師になりたいと思い始めたきっかけとして、教師をやっていた祖母の影響です。祖母は私が小学校4年生の時に亡くなりました。実際、祖母が教師をやっていた記憶はありません。退職した後でも教え子たちがいつも祖母の所へ訪問してきては、いつも笑顔で話す姿をみては、いつしか教師に対する憧れを抱いていました。高校2年生の担任の先生に出会ってからは、憧れから目標へと変化しました。大学を選ぶ上でも、日本史が学べて、教員免許が取得できる所に絞っていきました。

いざ大学に入学して授業が始まったが、教師になる目標は変わらないものの、教職関係の授業は自分の中で受身となっていました。しかし3回生になったとき危機感を感じ、自分自身に不足している部分を克服しなければと思い、教材研究の授業などを活用し大勢の前で話すことに対する慣れをつけていけるようにしました。

2、学習会への参加

3年の後期から、教職担当の中戸先生のもとで行われている教職学習会への参加を決意しました。この学習会では、共に教職を目指す仲間が集まり、自己アピールや教育に関するテーマを基にディスカッションを行いました。教職に関して志の高い学生が多く集まっているため盛り上がり、自分の考えとは違う考えを持った仲間の意見も聞く事ができる良い機会でした。ディスカッション終了後は、その日の意見をまとめて今後の活動へと活かせるようにしました。4月になると学習会の中心は、模擬授業へと移っていきました。学生が生徒役となり1時間分の授業を行っていきました。板書の仕方、話し方、仕草など細かい部分まで、先生をはじめみんなから意見やアドバイスをもらい、少しずつ改善していけるように努力しました。さらに、授業の様子をビデオで撮影し何度も何度も見て、日ごろ自分自身では気づくことのできない癖や行動を把握していくこともできました。学習会の時間だけでなく、授業の合間などの時間にも仲間同士で集まり、一回でも多く模擬授業をやり授業することに慣れていくと共に、より良い授業を作っていけるように試行錯誤していきました。自分自身の授業だけでなく、仲

間の授業を受けることで「こんな進め方もできるんだ!!」「自分ならこう進めてみようかな。」といったような発見もできるため、とても有意義な時間を過ごしていくことができました。

3、いよいよ、教育実習へ

5月中旬から3週間、母校（高等学校）にて教育実習を行いました。「やってやるぞ!」という思いの反面、少し不安な点もありました。しかし、のんびりしているとあっという間に実習も終わってしまうので、とにかく全力でひとつでも多く自分の中に吸収していき、何事においても積極的に行動していくことを目標として掲げました。その事からも、実習生代表のあいさつなども自ら進んでおこないました。

授業に関しては、1時間の授業を構成していくのは、やはり容易なことではありませんでした。教育実習中のほとんどを教材研究の時間に費やしました。生徒の立場に立ち、どういう所に疑問を抱くのかを考え、生徒たちに興味を持ってもらえ、その中でもしっかりと知識を伝え、考える事ができるように工夫しました。研究授業では、模擬授業でおこなった範囲をやることとなったので、反省を活かしつつ指摘された自分の長所・短所を思い出しながら、組み立てていきました。もちろん授業に関してだけでなく、学級運営を中心とした担任の仕事も経験させていただきました。クラスによっても様々であるため、学級担当の先生だけでなく多くの先生方からもお話を聞かせていただきました。そんな中で、ある先生は人前で話をするとき緊張してしまう私のために、授業を15分ほど早く切り上げてくださって少しでも慣れていけるようにと時間を提供してくれました。

3週間の教育実習の中では、上手いかず、とても悔しい思いもしました。今まで見ていた生徒の視点では理解できないような教師の仕事の大変さも垣間見えました。しかしそんな苦労の中でも、生徒たちの明るい笑顔がすべて楽にしてくれました。教師になる上ではもちろん、大人になる上でも様々な経験が出来た実習でした。

4、大学で学んだこと、そして今後の抱負

在学した4年間の中で多くのことを経験し学んできました。常に向上心を持ち、積極的に動くこと、特に学習会を通じて、自ら発信していくことの重要性を知ることができました。授業に関しても、まだまだ未完成で今後はもっと成長していかなければなりません。授業だけでなく、教師として重要な知識もまだまだ不足している部分があるので大学を卒業したこれからも知識や経験を増やし、故郷である“鳥取”で教壇に立つという目標を崩すことなく常に努力を重ね、進んでいけるようにしていきたいです。